

令和7年度文京区立根津小学校 学校経営方針

文京区立根津小学校長 四家 薫

教育目標 「凜と歩む、根津小」

子供が毎日楽しく通える学校
保護者が安心して子供を送り出せる学校
地域と共に歩む学校

○東京都の教育目標

- ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- ・自ら学び行動する、個性と創造力豊かな人間

○文京区の教育目標

- 「個が輝き共に生きる文京の教育」
- ・心身ともに健やかで、自他を尊重し、人間性豊かにたくましく生きる人
 - ・自ら学び考え、表現して行動する人
 - ・社会の一員として広い視野をもち、日本の将来を担う人
 - ・地域を愛し共に生きる社会を築く人

礼儀正しい子

- ◎相手を尊重し、人の話にしっかりと耳を傾けられる子
- ◎気持ちのよい挨拶や返事、正しい言葉遣いなど、場にふさわしい行動ができる子
- 思いやりの心で分け隔てなく人と接し友達を大切にできる子
- 他者と共に生きることの大切さを理解し、感謝の気持ちをもてる子

つよい子

- ◎基本的な生活習慣を身に付け、健康で安全な生活を送ることができる子
- ◎自分自身の感情をコントロールし、困難に直面しても前向きに乗り越えようと努力できる子
- 遊び、運動をすすんで行き、体を鍛えようとする子
- 善悪の区別をつけ、ねばり強く最後までやり通そうとする子

たくさん勉強する子

- ◎既習事項を活用し、協働的な学びの中で考えを広げたり深めたりすることができる子
- ◎自分の思いや考えをすすんで表現できる子（校内研究との関連）
- ものごとへの興味・関心をもち、すすんで学習に取り組むことができる子
- めあてに向けて主体的に取り組み、最後まで粘り強く取り組むことができる子

子供たちの成長を支える根津小教職員（「学校は楽しいところ」を実現するために）

- 児童の「できない・分からない」を肯定的にとらえ一人一人の成長に貢献する
- 児童の手本となる
- 前例踏襲ではなく自らが工夫し変化し続ける
- 児童・保護者に信頼される
- いつでも笑顔で接する

チーム学年・教科担任制へのゆるやかな移行（複数の目で子供の成長を見守る）

確かな学力の育成

- わかる・できる・楽しい授業の実施
 - ・「自分の思いや考えをすすんで表現できる子」の育成
⇒国語科を中心として校内研究のテーマとして取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
 - ・根津スタンダードを徹底し、学習規律を確立する。
- ICT機器の日常的な活用
 - ・タブレットPCのアプリを効果的に活用し、学習における話題の共有化や思考の視覚化に生かす。

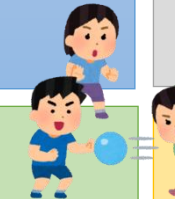


豊かな心を育てる教育の推進

- 望ましい対人関係の構築
 - ・コミュニケーションの基本となる「挨拶と返事」「全身で人の話を聞く」ことを根津小の当たり前にする。
 - ・集団の一員としての役割と責任をもたせる。
(学級・委員会・クラブ・根津っこ班活動の充実)
- 人権教育の推進と道徳授業の充実
 - ・一人一人の居場所や活躍がある学校づくり（自他の違いや多様性を認める）
 - ・「考え・議論する」道徳授業の実現をめざす。
 - ・いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。

安全教育の推進

- 安心安全な学校づくり（安全教育推進校として）
 - ・身近に潜む危険について理解の定着を図る。
 - ・児童一人一人の危険回避能力と行動選択能力の向上を目指す。
 - ・定期的な安全指導・安全点検の徹底。
 - ・実効性のある避難訓練の実施

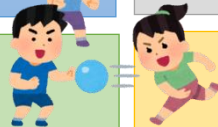


健康・体力の増進

- 基本的生活習慣の確立と体力増進
 - ・根津スタンダードを徹底し、全学年同一の内容で定着を図る。
 - ・日常的な健康づくり・体力づくりへの啓発を行う。
 - ・体力テストの結果を踏まえ、意図的・計画的な体育の授業実践を行う。

特別支援教育の推進

- 特別支援教室の円滑な運営
 - ・発達上の様々な特性による困難さを軽減する。
(学校・家庭・専門機関等と連携し、チームで対応)
 - ・コミュニケーション能力を伸ばす。
 - ・個別最適な学びを実現させる。
- インクルーシブ教育の推進
 - ・特別な支援を要する児童への理解を深める。
 - ・ユニバーサルデザインを意識した授業実践と教室環境の整備（焦点化・視覚化・共有化）



保護者・地域との連携

- 地域と共に歩む学校づくりの推進
 - ・学校の見える化を図る。⇒積極的な情報発信
 - ・地域人材や場所を活用した教育活動を推進する。
 - ・地域行事への積極的な参加を促す。
(地域への愛着と誇りを育む)
- 保幼小中の連携・接続
 - ・保幼小中の連続性を意識し、行事連携等を通して、教職員・児童・生徒・園児等の交流を図る。
(小1プロブレム、中1ギャップの解消)